

PRIMERGY TX200FT ご使用の際の留意事項について

このたびは、弊社の PRIMERGY TX200FT をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本サーバをご使用になる上で以下の留意事項がございますので、本書をよくお読みの上ご使用願います。

平成 16 年 8 月
富士通株式会社

添付ドキュメントの訂正事項について

本サーバに添付の『PRIMERGY TX200FT ユーザーズガイド』(B7FH-2601-01)に訂正事項がございますので、下記のとおり訂正させていただきます。なお、『PRIMERGY TX200FT ユーザーズガイド』は PRIMERGY ドキュメント&ツール CD に格納されています。

「2.8 FT システム運用上の留意事項」の「2.8.4 その他」に、以下を追加いたします。

■ CoServer のパスワードによる保護（コンピュータのロック）について（Windows 2000 Server タイプのみ）

CoServer 上でスクリーンセーバのパスワードによる保護機能などにより、コンピュータがロックされた状態になると、FT システムの再起動／終了が正常に行えません。直接操作しない CoServer はログオフした状態にするか、スクリーンセーバのパスワードによる保護をしないでください。

■ ドメインユーザでの管理者権限タスクの実行について

ドメインユーザにて Endurance Manager、Taskbar Icon、Management Tasks から、FT システムの再起動、停止などの管理者権限が必要なコマンドを実行するには、そのドメインユーザが以下の条件を満たしている必要があります。

ドメインユーザ名: Administrator / 所属グループ: domain admins

上記以外のドメインユーザにて、Endurance Manager 上から管理者権限が必要なコマンドを実行した場合、ユーザ認証のダイアログが表示されますので、上記ユーザを入力するか、またはローカルコンピュータの Administrators グループに所属するローカルユーザを入力します。Taskbar Icon、Management Tasks からコマンドを実行した場合、確認のダイアログは表示されますが「OK」を選択してもコマンドは実際には実行されません。

■ OS インストール CD について

本製品はリカバリ CD が添付されているため、OS インストール CD は添付されておりません。システム運用中に OS インストール CD が要求された場合、リカバリ CD に格納されている i386 フォルダを指定します。

【Windows 2000 Server タイプの場合】

Disc9 に i386 フォルダが格納されています。OS インストール CD が要求された場合、Disc9 を挿入し、手動で i386 フォルダを指定してください。また、Windows OS のファイル保護機能により OS インストール CD が要求される場合は、フォルダを指定することができません。この場合は、i386 のフォルダを FTVirtual Server、CoServer1、CoServer2 のローカルディスク上にコピーします。

以下に、設定手順例を示します。なお、レジストリエディタの操作を誤ると、システム全般に渡る重大な問題を引き起こす可能性があります。レジストリのバックアップなどを行った上で、お客様の責任において十分に注意して行ってください。

1. FTVirtual Server にログオンします。
2. Disc9 に含まれる i386 フォルダを C: 上にコピーします。
3. [スタート] ボタン → [ファイル名を指定して実行(R)] の順にクリックします。
4. 名前に「regedit」と入力して [OK] をクリックします。
レジストリエディタが起動します。
5. 左のツリー部分で、表示されている名前の左側の「+」部分をクリックして階層を展開し、以下の名前を表示させます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Setup

6. Setup の文字をクリックします。
7. 右側のウィンドウ内に表示される名前の「SourcePath」をダブルクリックして、文字列が編集できる状態にします。
8. パスのドライブ部分を変更します。
デフォルトでは CD-ROM ドライブが指定されているため、FTvirtual Server では「D:¥」、CoServer では「E:¥」の部分で、i386 フォルダのコピー先の「C:¥」に変更してください。
9. 2-8 の操作を CoServer1、CoServer2 で同様に実施します。
10. FT システム全体を再起動して、設定を反映させます。

詳細については、以下のマイクロソフトのサポートサイトを参照してください。

マイクロソフト サポートサイト： <http://support.microsoft.com/>

「マイクロソフト サポート技術情報 - 222473 (英語版技術情報を選択して参照) Registry Settings for Windows File Protection」

[Windows Server 2003 タイプの場合]

Disc11にi386フォルダが格納されています。また、OSはDisc11をOSインストールCDとして認識しますので、OSインストールCDを要求された場合はDisc11をご使用ください。

「3.4 UPS の設定」の「3.4.6 留意事項」に、以下を追加いたします。

■PowerChute Business Editionでのスケジュール運転について

Windows 2003 タイプで PowerChute Business Edition を使用してスケジュール運転をする場合、運用環境によっては、CoServer1 および CoServer2 のシャットダウンが正常に行われたにもかかわらず、まれに次回起動時に System Error イベントが記録される場合があります。下記イベントが出力された場合もシステムは正常にシャットダウンされていますので、運用上問題はありません。

シャットダウン時に以下のイベントが記録され、正常シャットダウンしている

ソース	ID	説明
Eventlog	6006	イベント ログ サービスが停止されました。

かつ、次の起動時に以下のイベントが記録される

ソース	ID	説明
System Error	1003	エラー コード c9000003、パラメータ 1 xxxxxxxx、パラメータ 2 xxxxxxxx、パラメータ 3 xxxxxxxx、パラメータ 4 xxxxxxxx。

なお、以下の設定を行うことで、この現象の発生を防止できます。

UPS 制御ソフトウェアの設定 (P. 74 参照) において、UPS バッテリーの保持時間を考慮した上で、CoServer2 側の「待ち時間 B」に 2 分加えた値を、CoServer1 側の「待ち時間 B」として設定します。設定方法は「PowerChute Business Edition の設定」(P. 88)を参照してください。

例：CoServer1 の待ち時間 B → 5 分

CoServer2 の待ち時間 B → 3 分

ただし、スケジュール設定は CoServer1 と CoServer2 で同じのまま、変更する必要はありません。

「7.1.2 TX200FT 運用上の留意事項」の「■片方のサーバが起動しない場合の対応について」に記載の「1 台で起動する方法」の最後の行を、以下のように訂正いたします。

誤：もう一方の FT 復旧後、自動的にミラーコピーが実行され、システムが復旧します。

正：もう一方の FT 復旧後「有効化」すると、自動的にミラーコピーが実行され、システムが復旧します。

「7.5.4 FTvirtual Server のバックアップ」の最初の「POINT」に、以下を追加いたします。

- ・各種バックアップ装置で使用可能なソフトウェアに関しては、PRIMERGY システム構成図(留意事項)の「SCSI 装置 (バックアップ) 関連事項」を参照してください。システム構成図に記載された使用可能なソフトウェア以外での動作は保証しておりません。

